

在日中国人家庭における文化摩擦の意識調査

小 柴 裕 子

I. はじめに

兵庫県内の在留外国人数は、101,562人（2016年12月）で、阪神大震災で一時減少したものの、その後再び増加傾向にある。

「ひょうご多文化共生社会推進指針」の基本指針に「日本人県民と外国人県民との間に生じる誤解や摩擦等の『こころの壁』を解消するため、すべての県民が多文化共生社会の理念を十分理解し、活力ある地域づくりに取り組んでいけるよう、多文化共生の意識づくりを推進する」と明記されているが、そのためにはまず実態を知ることが重要であると思われる。

2015年に兵庫県が行った「多文化共生に関するアンケート」調査によると、県内41市町のうち29市町が「外国人県民の現状・実態の把握ができていない」と答え、20市町が「日本人県民と外国人県民とのコミュニケーション、交流の機会の不足」を自覚し、ミス・コミュニケーションによる居住トラブルや生活トラブルが報告されている。

兵庫県全体の在留外国人のうち、中国籍県民は22.4%に当たる22,727人である。国籍別では、韓国籍に次ぎ2番目に多い。本調査では、兵庫県に居住する中国人家庭の文化摩擦に関する意識調査を行うことで、彼らがどのようなところで文化の相違を感じ、困難としているのかを明らかにし、外国人県民の現状・実態の一端に迫りたい。

II. 調査目的

アンケート調査では、「文化スキーマ」分析の手法を用い、「文化相違調査」「困難度調査」を行った。

「文化スキーマ」について、西田(2008)は「日本で産まれた子供とか、中国で産まれた子供は、日本とか中国の文化環境に合わせた神経回路網ができますが、神経回路網という用語は、文化スキーマと呼ばれています。人間はこの文化スキーマがないと、物事が認識できず、行動もできないし、思考もできません」(213ページ)と述べている。また、「文化スキーマは状況依存型ですので、どういうところで育ったかによって違ってきます」(214ページ)とし、さらに、「これは、その後の子供の自己アイデンティティ形成にも関わってきます」(214ページ)と述べている。

日本と中国は、文化環境が異なるので、「文化スキーマ」も異なると思われる。異なる「文化スキーマ」で思考し、行動することは、時に違和感を感じ、更には困難に感じるが出てくると予想される。日本在住の中国人家庭において、この「文化スキーマ」を明らかにすることが、本調査の目的である。

Ⅲ. 調査方法

調査期間は、2016年の8月から10月までの3ヶ月間である。アンケート調査の回答を元にインタビュー調査を行った。調査対象は、筆者が継続的に調査している兵庫県に居住する中国人家庭で、6家庭のうち親6人子9人である。

Ⅳ. 調査事例

1. 学校について

(1) 子の調査

表1 学校に関する文化相違調査と困難度調査の比較 (子9人)

	いつも違いを感じる	時々違いを感じる	いつも難しいと感じる	時々難しいと感じる	わからない
日本の学校の授業	3	2	1	3	0
日本の学校の活動	4	2	0	3	0
日本人の先生	4	0	0	1	0
失敗した時の日本人の先生、先輩の叱り方	3	2	0	2	1

以上の比較により、子供たちは日本の学校に違いは感じているが、常に困難であるとは思っていないことがわかる。しかし、日本の学校に馴染んでも、日本語の問題から「日本の学校の授業」に困難を感じる子が多いことがわかる。太田(1996、2000)はCummins(1989)のBICSとCALPを「社会生活言語」「学習思考言語」と訳し、生活で使う言語能力と、学習で使う言語能力に違いがあることを説いている。日常生活では問題がなくても、授業や問題の説明がわからないのは、やはり「学習思考言語」の方がまだ十分に伸びていないからであろう。以上のことから、子供たちは、学校教育という異文化環境において、まず、「社会生活言語」の獲得は得やすいものの、続く「学習思考言語」の獲得には困難を感じていることがわかる。また、この段階までクリアさせることが求められていると言えよう。

(2) 親の調査

表2 学校に関する文化相違調査と困難度調査の比較 (親6人)

	いつも違いを感じる	時々違いを感じる	いつも難しいと感じる	時々難しいと感じる	わからない
日本の学校の授業	1	0	1	1	3
日本の学校の活動	2	2	0	1	2
日本人の先生	1	0	0	1	2
失敗した時の日本人の先生、先輩の叱り方	0	3	1	0	2

親は「わからない」の回答数が一番多いことがわかる。日本の学校に「違いを感じる」以前に、日本の学校事情を知らないと言える。親からは以下のような発話があった。

・（日本の学校はどう思いますか？）日本の学校のことは、よくわからない。¹⁾

両親が中国人の家庭は、学校で子供がどのように過ごしているか全く把握できていないことがわかる。

一方、教育熱心な家庭からは、日本の先生に対して以下のような発話があった。

- ・日本の先生は、もっと厳しくしてほしい。子どもを叱るのがいい、うちの子のように、くつろぎすぎなのはよくない。²⁾
- ・時々日本の先生はやさし過ぎると思う。悪い同級生を見たとき、私はそれを見てとても怒ったが、先生はそれでも温和な感じだった。普段はやさしくてもいいけど、悪い生徒には、厳しくするべきだ。子どもの両親のことを恐れないでほしい。怒る時ははっきり怒る。やさしい時はやさしくしてもいい。それが一番いい。³⁾

中国国内の子供たちは競争が激しく、もっと勉強している。また、先生たちも厳しいようだ。したがって、中国人親たちは、日本の勉強量、指導に物足りなさを感じているようだ。

2. 友達・チームワークについて

(1) 子の調査

表3 友達・チームワークに関する文化相違調査と困難度調査の比較（子9人）

	いつも違いを感じる	時々違いを感じる	いつも難しいと感じる	時々難しいと感じる	わからない
日本人の「ノー」の言い方	4	1	0	1	1
日本人のチームワーク	3	3	1	2	0
日本の友達とのコミュニケーション	4	2	0	2	0

友達との関係で、日中の違いを感じる子が多いことがわかる。また、一見、日本人コミュニティの中に溶け込んでいるようだが、困難を感じている子もいることがわかる。

- ・言いにくいけど…違う。
- ・（友達とのコミュニケーションは、どんな時違いを感じますか？）気を使っているというか…中国の友達だったら、ふつうに何でも言えるけど、日本の友達だったら気を使う。
- ・遊ぶ時、何と言うか、昔中国にいる時は帰る時、友達に「帰る」とか言わずに勝手に帰ってたんですよ。でも、日本人だったら勝手に帰ったら家まで「ピンポン」して「どうしたの？」みたいな。（勝手に帰るのが当たり前だと思っていたから？）そう。

中国では、友達と友達の間で「ありがとう」「ごめんなさい」といったことは、一言言わないことがある。仲がいいのに、改めて礼を強調することは、逆に他人行儀で「水臭い」と思えるよ

1) ～3) 発話の原文は後出する。

うである。このような日中のコミュニケーションにおけるルールにも、「文化スキーマ」の違いがあると言えよう。

「日本人の『ノー』の言い方はわからない」は、以下の発話が挙げられる。

- ・(友達の時?先生の時?)全部ある。「いいよ」とか時々言われるんですけど、やっていいのか、別にいいのか…どっちなんかわかりにくい。
- ・(日本人の「ノー」の言い方は、時々わからないですか?)あの、雰囲気とかあるじゃないですか、空気読まずに「ノー」って言ったら、なんか気を悪くしたりとか、そういう感じ。

「空気読まずに」という発言にあるように、巷でささやかれている「KY(空気読まない)」に関して、若者の間では特に敏感のようである。この空気とは、一体なんであろうか。西田は、「コミュニケーション行動が行われている状況や相手との関係や微妙な言語表現によって、相手にこちらの意図を理解してもらう、いわゆる察しという機能があります」(西田、2008、86ページ)と述べている。このような「察し」が「空気」に通じるものだと言えよう。また、高コンテクストと言われる日本社会において、この察知するといったコミュニケーション・ストラテジーの「文化スキーマ」が確立されていないことがわかる。

(2) 親の調査

表4 友達・チームワークに関する文化相違調査と困難度調査の比較(親6人)

	いつも違いを感じる	時々違いを感じる	いつも難しいと感じる	時々難しいと感じる	わからない
日本人の「ノー」の言い方	3	2	0	3	0
日本人のチームワーク	2	1	0	3	2
日本の友達とのコミュニケーション	1	3	2	2	1

中国人親は、言葉の問題から日本のコミュニティに馴染んでいないことが多いようだ。

- ・(日本に日本人の友達はいますか?)言葉が通じない。⁴⁾
- ・親しいというか、そういう友達はあるまいいない。深く付き合っている人はいない。
- ・会社の(日本)人はいますが、家に招いたり、深くは付き合っていない。

夫婦で工場の仕事をしている中国人両親は、仕事でも家庭でも中国語を話し、日本人との関わりもなく、日本にいながら日本のコミュニティと接点がない。

一方、日本人と交流のある中国人親からは、以下の発話があった。

- ・知り合っても、淡白な感じだ。日本人は表面的だ。⁵⁾
- ・会社や交流センターで日本人と知り合った。普段交流している時は、気にかけてくれたり

4) ~5) 発話の原文は後出する。

と、とても温かく感じていた。でも、子どもが学校で書類を持って帰って来て、保証人が必要だった時があった。中国の学校だったら、サインするところがあっても別に責任は負わない。だから、普段関係がいいし、彼らにも子どもがいるし、保証人の件を頼んでみた。でも、断られた。彼らも知ってるはずなのに、彼らも子どもがいるのに、責任を負う内容じゃないのに…この感覚は日本人と中国人とは違う。⁶⁾

中国であれば、友達同士では何でもするし、何の遠慮もないが、日本では「親しき仲にも礼儀あり」という考えが強く、相手に迷惑をかけずに、むしろ一定の距離を取るほうがいとされる。これは、距離を縮める中国流の「文化スキーマ」とは逆の「文化スキーマ」であると言えよう。中国人親らには、理解しがたいのかもしれない。

3. 社会習慣・生活

(1) 子の調査

表5 社会習慣・生活等に関する文化相違調査と困難度調査の比較 (子9人)

	いつも違いを感じる	時々違いを感じる	いつも難しいと感じる	時々難しいと感じる	わからない
日本の道徳・マナー	6	2	0	3	0
日本のお葬式・結婚式	2	0	0	1	7
日本の近所付き合い・親戚付き合い	2	1	1	2	4
日本の生活	5	0	2	1	0

「日本のお葬式・結婚式」「日本の近所づきあい・親戚付き合い」では、「わからない」の回答数が一番多い。

- ・(近所の人と話したりする?) ない。
- ・話すことないです。時間違うし、日本語難しい。
- ・(日本人の近所付き合い、親戚付き合いありますか?) ほぼないです。

ほとんどの子供たちが、日本で近所付き合い・親戚付き合いがなく、人間関係が学校に限定されていることがわかった。

一方、中国では親戚付き合い・近所付き合いのある子が多い。

- ・例えばこの町で誰、全部知ってる。なんか中国の生活はそんな忙しくないし、仕事の後は、なんかみんな一緒にご飯食べて。
- ・(中国帰って、うれしいとかある?) ある、いとこがご飯食べたり、前おった友達が遊びに来たり。

子供たちは、日本ではほとんど親戚付き合い・近所付き合いはないが、反面、中国の親戚付き

6) 発話の原文は後出する。

合い・近所付き合いは、今でも深いつながりがあることがわかった。また、近所の範囲もとなり近所だけでなく、「例えばこの町で誰、全部知ってる」というように、町全体まで広がっているようである。中国の「文化スキーマ」は、本来コミュニティ意識が強いと言えるのではないか。

(2) 親の調査

表6 社会習慣・生活等に関する文化相違調査と困難度調査の比較 (親6人)

	いつも違いを感じる	時々違いを感じる	いつも難しいと感じる	時々難しいと感じる	わからない
日本の道徳・マナー	4	2	0	2	0
日本のお葬式・結婚式	2	0	0	2	4
日本の近所付き合い・親戚付き合い	3	2	1	1	0
日本の生活	4	0	0	4	0

マナーに関して、日中の違いを感じる中国人親が多いことがわかる。

- ・どんな贈り物をあげたらいいかわからない。間違ったことをして謝りたい時に買う贈り物とか。⁷⁾

中国でも、タブーの贈り物や、強欲と思われぬために三度断るといったマナーがある。これらのタブーやマナーは日本の習慣とは違う。日本の習慣を知らず、中国の「文化スキーマ」だけでは、「日本の道徳・マナー」に戸惑うことが多いのではないかと思われる。

「日本のお葬式・結婚式」は子供たち同様、「わからない」と解答する中国人親が多かった。近所付き合いはあるが、色々困った話も聞いた。

- ・子供が小さい時は、子供がおもちゃを隣の家に投げたりして…おばちゃん「ピンポン、ピンポン」来て怒ります。
- ・私たちがお店を開いて、彼もお店を開いた。あの正面のお店。最初はお互いいい関係だった。その後、どうして彼の機嫌を損ねてしまったかわからないが、彼は私たちが嫌がるようになってしまった。挨拶しても取り合ってくれないし、コミュニケーションできない。⁸⁾

子供たちは近所付き合いがなかったが、中国人親たちは近所付き合いはあっても、意思疎通ができていないということがわかった。日本語が少しわかる中国人親は、コミュニケーションを取ろうとする。日本語は少しわかるが、意味やニュアンスを完全に理解できるわけではない。その場合、文化摩擦とコミュニケーション問題によるトラブルが発生しやすいと思われる。

親戚付き合いに関しては、以下の発話が挙げられる。

- ・中国では、親戚は新年の時に一緒に過ごしたり、家に招待したり、一緒にご飯を作ったり、

7) ~8) 発話の原文は後出する。

一緒に食べた後、みんなで一緒に帰る。日本は、家にあまり行かない。外でコーヒー飲んだり、おしゃべりしたりして、帰る。家に行ったり、家で一緒にご飯を食べないのは水臭いように思う。⁹⁾

中国の新年は、親戚同士の挨拶が欠かせない。皆、故郷に戻って、親戚一堂集まるのだ。日本でも親戚同士挨拶するが、「一緒にご飯を作ったり」することまでは、しないのではないだろうか。

以上から、近所付き合いにおいても親戚付き合いにおいても、中国の「文化スキーマ」が濃く、日本では、困難を感じていることが多いことがわかった。

V. おわりに

本研究では、在日中国人家庭の親子が「文化スキーマ」の違いにより、日本でのコミュニケーションにおいて困難を感じていること、及びその摩擦を提示してきた。

アンケートとインタビューを通して、子供たちは、日本の学校生活に問題ない日本語力を習得していても、学習言語に困難を感じており、また、「文化スキーマ」の違いから、友達とのコミュニケーションでは、言葉の含意や状況の「察し」に困難を感じていることがわかった。さらに、学校以外の社会との関わりが極端に希薄であることもわかった。

一方で、親たちは、日本語の問題から学校事情が把握できていないこと、また中国人の濃厚な付き合いの「文化スキーマ」から、日本人の付き合い方が淡泊であることに戸惑いを感じていることがわかった。

以上から、日本と中国の異なる「文化スキーマ」によって、コミュニケーション上では「察し」、つきあいの上では、「濃淡」の違いが生じていることが、明らかになった。また、在日期間が長くても、日本について「知らない」ことが多いことを、改めて確認できた。今後、中国農村出身者と都市出身者の違い、また国際結婚家庭と両親共中国人家庭の違い等精査し、さらにその先の課題である文化摩擦の解消を考えていきたい。

<謝辞>

本研究の遂行にあたり、調査にご協力頂いた方々に深謝致します。

<注>

- 1) (你日本学校的一些事情你都不知道吗?就是日本学校是什么样子的或者什么的…你知道吧?) 不知道。
- 2) 本老师我还是希望管的严一点好。批评小孩比较好,太放松的话就不行就像我儿子。
- 3) 有时候我感觉日本的先生やさし過ぎる,碰到特别不好的同学,我都看着很生气,但是老师还是很温柔的。我觉得一般的时候可以優しい,但是特别不好的学生,你该严厉就得严厉,你不要怕他的爸爸妈妈会到学校里反应或者怎么样的方式,这样的话我感觉你叫不出好的学生。怒る時ははっきり怒る。優しい時は優しくしてもいい。それが一番いい。
- 4) (在日本有没有什么日本的朋友吗?) 语言不通。
- 5) 就是越相处感觉就越淡了,感觉都是表面的。

9) 発話の原文は後出する。

- 6) 就是公司的和通过交流中心认识的,平时交流的时候呀,嘘寒问暖的,特别关心,我感觉这是特别温暖的,就是挺好的,我们相处的挺好的,但是我家孩子在学校经常填一些表,然后还有一个保证人,学校要经常来,这个地方就是日本人和中国人不一样的地方。在中国的话,也是需要有个签名的地方,就是以后不需要担责任,学校会有一个要求会让你签一个保证人,然后我就会想,因为平时关系都挺好的嘛,经常交往,就想请他帮个忙,因为别人也不认识嘛,就帮我当个保证人,他们肯定都知道,他们也有孩子嘛,就是有些没有责任的事嘛,但是他就拒绝我了。那我就觉得做的有点那个。就是感觉日本人跟中国人不一样嘛。
- 7) 是不知道给什么礼物,比如有时候做错事情的时候要赔礼道歉,要买礼物。
- 8) 我在这边开店,然后他也在这边开店。就跟他们就像对面的那家。起先我是跟他很好,我们当时很好嘛。到后来我不知道是哪里得罪他了,就摆着臭脸什么的,我跟他あいさつ他就不理不睬,就跟他还是有代沟,就是跟他交流不了。
- 9) 在中国,亲戚的话,比如说逢年过节会走亲戚,走亲戚的话家里会拿一些东西去招待,大家一起烧菜,一起吃饭,吃完饭大家再回去。但是在日本,大家的亲戚好像不会到家里来,都会在外面的咖啡馆,喝喝咖啡,一起说说话,然后就回去了,不会到家里来,不会在家里吃饭,这种我感觉有点水臭い。

<参考文献>

- ウェンシャン・ゴン (2008) 「中国人のコミュニケーション行動」(小野直人訳) 『グローバル社会における異文化コミュニケーション』 風間書房。
- 太田晴雄 (1996) 「日本語教育と母語教育—ニューカマーの外国人の子どもの教育課題」 『外国人労働者から市民へ—地域社会の視点と課題から』 有斐閣。
- 太田晴雄 (2000) 『ニューカマーの子どもと日本の学校』 国際書院。
- 過放 (1999) 『在日華僑のアイデンティティの変容—華僑の多元的共生』 株式会社東信堂。
- 高橋朋子 (2009) 『中国帰国者三世四世の学校エスノグラフィー—母語教育から継承教育へ』 生活書院。
- 西田ひろ子 (2008) 『グローバル社会における異文化コミュニケーション』 風間書房、86ページ、213-214ページ。
- 西田ひろ子 (2007) 『米国、中国進出日系企業における異文化コミュニケーション』 風間書房。
- Cummins, J (1984) *Bilingualism and Special Education: Issues in Assessment and Pedagogy*, Multilingual Matters.

兵庫県「県内在留外国人数」

https://web.pref.hyogo.lg.jp/sr13/ie12_000000010.html (2017年8月16日アクセス)

兵庫県「ひょうご多文化共生社会推進指針」について

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/sr13/tabunkakyousei.html> (2017年8月16日アクセス)

<参考資料>

1. 調査対象者のプロフィール

表7 子のプロフィール

	名前	年齢	在日年数	出生地	国籍	父の国籍	母の国籍	来日分類
①	A 家庭(姉)	20歳(高3)	4年	中国	中国	中国	中国(残留孤児4世)	帰国者家族
②	A 家庭(弟)	12歳(小6)	4年半	中国	中国	中国	中国(残留孤児4世)	帰国者家族
③	B 家庭(子)	18歳(高2)	3年	中国	中国	不明	中国	不明
④	C 家庭(子)	12歳(中1)	9年	日本	日本	日本	中国	国際結婚
⑤	D 家庭 (双子姉)	16歳(高2)	8～9年	日本	日本	日本	中国	国際結婚
⑥	D 家庭 (双子妹)	16歳(高2)	8～9年	日本	日本	日本	中国	国際結婚
⑦	E 家庭(子)	10歳	6年	日本	中国	中国 (朝鮮族)	中国	仕事
⑧	F 家庭(兄)	18歳(高3)	8年	日本	中国	中国	中国	仕事
⑨	F 家庭(弟)	10歳	5年	日本	中国	中国	中国	仕事

表8 親のプロフィール

	名前	年齢	在日年数	出生地	国籍	父	母
①	A 家庭(父親)	42歳	4年	中国	中国	中国	中国
②	B 家庭(母親)	41歳	5年	中国	中国	中国	中国
③	C 家庭(母親)	38歳	14年	中国	中国	中国	中国
④	D 家庭(母親)	49歳	6年	中国	中国	中国	中国
⑤	E 家庭(母親)	39歳	13年	中国	中国	中国	中国
⑥	F 家庭(母親)	44歳	20年	中国	中国	中国	中国

2. インタビュー日時・場所・時間・言語

表9 子のインタビュー

	名前	日時	場所	時間	言語
①	A 家庭 (姉)	9月13日	フードコート	約60分	日本語
②	A 家庭 (弟)	9月20日	A 家庭宅	約60分	日本語
③	B 家庭 (子)	9月16日	国際交流協会	約20分	日本語
④	C 家庭 (子)	9月16日	国際交流協会	約20分	日本語
⑤	D 家庭 (双子姉)	9月20日	D 家庭宅	約40分	日本語
⑥	D 家庭 (双子妹)	9月20日	D 家庭宅	約40分	日本語
⑦	E 家庭 (子)	9月18日	日本語教室	約20分	日本語・中国語
⑧	F 家庭 (兄)	9月18日	F 家庭経営の中華料理店	約40分	日本語
⑨	F 家庭 (弟)	9月25日	日本語教室	約20分	日本語・中国語

表10 親のインタビュー

	名前	日時	場所	時間	言語
①	A 家庭 (父親)	9月20日	A 家庭宅	約60分	中国語
②	B 家庭 (母親)	9月18日	国際交流協会	約20分	日本語・中国語
③	C 家庭 (母親)	9月16日	国際交流協会	約20分	日本語
④	D 家庭 (母親)	8月4日 9月13日	カフェテリア、中華料理店	約60分	日本語・中国語
⑤	E 家庭 (母親)	9月18日	日本語教室	約20分	日本語
⑥	F 家庭 (母親)	9月18日	F 家庭経営の中華料理店	約30分	日本語・中国語